



# あさひ

令和5年10月  
学校だより



横浜市立旭小学校 SINCE 1901

## 体験的な学習で身に付ける力とは

校長 益子 照正

9月下旬になっても猛暑が収まらず、暑さによる体力消耗が影響しているのか、元気なあさひっ子もやや疲れ気味にもみえます。そんな中ではありますが、9月20日～22日の3日間で6年生とともに群馬県片品村へ宿泊体験学習に行ってきました。これは、他校が実施している修学旅行に代わるものとしての位置づけであり、令和2年に目的地や内容のフルモデルチェンジを行い、今回が3度目の実施です。※令和2年は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止



宿の方にうどん作りを教わる



宿の方との親交を深める



水源に向かっての沢登り



最終日2時間の班行動

自由時間も4、5年生の頃に比べて多かったので周りをよく見て、考えて行動することを意識しました。

民宿の方に自分から挨拶をしたり困ったことを相談したりすることができました。

とおかんやのときに、作り方を男女関係なく教えあったり、みんなで声を掛け合って練習したりして自分たちで協力できました。

6年生の振り返りを抜粋しました。この体験学習で得た学びを、どのようにお感じになったでしょうか。これからの教育では「何を行ったか」ではなく「どんな力を身に付けたか」が重要なだと叫ばれています。本校においては、その核になるものとして体験学習を位置づけ、直接的に資質・能力の育成を目指しています。

この考え方、実は令和になってからのものではありません。本校では平成期においても中心となる教育活動に取り入れてきたものです。その代表としてあげられるものが、平成22年から令和元年までの10年間にわたり、新潟県の妙高市において実施してきた4泊5日の宿泊体験学習です。6年生とはいえ、小学生としては異例ともいえる4泊5日の体験学習を取り入れることを決断した当時の資料によりますと、その体験学習の価値として次のような記載があります。

- ・ 自然の中での直接的な体験から多くのことを学ぶ機会とする
- ・ 4泊5日を共に過ごす中で友達との間に生じるであろう様々な出来事を、互いに折り合いをつけながら解決し、人間関係を深める機会とする
- ・ 5日間の生活の中で、『自分自身を見つめる』『感謝』『協力』の3つを重視する

持続可能な行事の在り方を再検討した結果、目的地の変更や期間の短縮を行いましたが、上記の価値を継承して新たな形にしたものが2泊3日の「片品宿泊体験学習」です。妙高体験学習で目指した自然体験や集団活動の意義をそのまま残し、重視した3つの要素は、学校教育目標に掲げる子どもに身に付けさせたい資質・能力である「思いをもつ力」「やり抜く力」「関わる力」に代えて引き継いでいます。上に取り上げた6年生の言葉から、妙高期から継承してきた体験学習で、どんな力を身に付けたのかをご推察いただければ幸いです。

資質・能力は、一朝一夕で育成できるものではありません。小学校での6年間を通した一貫した考えのもとで育成しなければならないものだと考えています。10月には4年生、5年生と立て続けに体験学習を設定していますが、6年生になったときに身に付けてきた資質・能力をさらに開花できるように見通してのものです。遡れば、1年生の体験学習(遠足)等から始まる系統性の中で、あさひっ子の成長を支えています。どうぞ、さらなるご理解とご協力をお願いいたします。

### ★5年生「心の教育ふれあいコンサート」を鑑賞★

9月26日、横浜市教育委員会が主催する「心の教育ふれあいコンサート」を本校の5年生が鑑賞しました。横浜が誇るみなとみらいホールにて、神奈川フィルハーモニー管弦楽団の生演奏を聴く貴重な機会になりました。

児童向けに、聴きなれた曲をチョイスしてくれているので、2階席で鑑賞していたあさひっ子にもノリノリのシーンが多々ありました。 ※写真は開演前に撮影したものです

